

令和4年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和5年2月24日(金)14:00~16:00

○場所

オーテピア4階 ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

市民図書館長あいさつ

委員紹介

会長・副会長の選出・・・会長:加藤委員 副会長:篠森委員

議事録署名人の選出・・・西尾委員

2 議事

(1)令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画について

(2)その他

3 閉会

県立図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

議事(1) 令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画について

(委員)

オーテピア高知図書館の皆様が、ご尽力し、まさしく情報拠点となる高知の文化を向上させる取り組みをしてくださっている。学校現場はそれをさらに生かしていかななくてはと、いつも感じている。

2月の校長会で図書館から説明のあった電子図書館の登録、活用について、これは生かせるということ意見があった。おそらくこの学校も、まずは教員がタブレット端末で登録を行い、そして各学級で登録しているところで、これからどれだけ活用していくかだと思っている。

分館・分室は地域に根差した図書館を目指すという話があったが、本校でもボランティアが読み聞かせをしてくださっている。その方はいつも各担任の先生に、次の本の希望を聞いてくださる。1年生のある担任は、友情に関する本を希望し、別の先生は一人一人それぞれ違ったよさがあるという個性の伸長についての絵本の希望があった。ボランティアが読み聞かせの本を選ぶときはどうするのか聞くと、学校近くの分室の方に相談しながら本を決めているという話があった。またそれ以外にも、子供が興味を持ちそうな本を持ってきて、いろいろなことに気づいてくださっている。

学校としては様々な課題もあるが、これからも図書館をさらに活用できるような取り組みをこれからも行っていきたい。また、電子図書館の登録をしたので、質問や相談をしながら、電子図書館のよさを学校側からもオーテピアに発信していかななくてはいけないだろう。こちら側からも発信していきながら、よりよい子供たちに合ったものにしていきたい。

(委員)

長年オーテピアの取り組みを聞かせていただき、いろいろな情報化がすごく進んできたと思っている。スマートフォンやいろいろなものを使って、県民市民の方々に情報を提供していく姿は素晴らしい。

今年度は分館分室等への重点的な取り組みとして、朝倉ふれあいセンターにある朝倉分室にも出向いてこれ、図書館の職員も励みになっている。これからもオーテピアを含めて分館分室で協力して、図書館の発展に尽くしていきたい。

(委員)

皆さんの長年の努力が実り、県民生活に根付いたと実感している。資料1の貸出点数は、巣ごもりやコロナ、生活費が高騰している割に上がっていないと思ったが、電子書籍の閲覧回数が上がっている。紙の本から電子に移行したと感じる。紙の本と電子書籍を読む人が年代で大きく分かれている。若い世代は学校でプログラミングやタブレットで宿題が出ると聞いた。社会的にデジタル化への加速がすごく、さみしい気もする。一方で、マイナーな本を探していた際に書店等では売り切れていたのが図書館にはあり、宝物に出会った気がした。マイナーな本も所蔵している図書館の底力を感じた。

団体貸出しについて、利用方法はどのように行うのか。

(事務局)

県立学校図書館への団体貸出しについては、県立の高校、特別支援学校だけでなく私立学校などにもセット貸出、団体貸出しを実施している。リクエストがあったら、本をまとめて、オーテピア高知図書館から各学校に送り、返送も含め図書館が送料を負担している。他にも市町村の図書館への協力貸出しや物流便で宅配便を活用して、図書館、保育所、教育委員会等にセットで貸出しをしている。

(事務局)

市民図書館では学校への団体貸出しは、県立図書館と方法が異なる。高知市立学校の場合は分館・分室への毎日の配送便で送り、分館分室でまで取りに来ていただいている。これは旧の図書館から実施している方法。また、児童クラブ、高齢者施設、様々な施設や団体が登録できる。カードを作ると、50冊まで1か月間借りられるので、皆さんにどんどんご利用いただきたい。

(委員)

全体合わせて団体貸出しという名称で、いろいろな方法があるとわかった。

(委員)

オーテピア高知図書館が本に関わるだけでなく、多様なサービスができていることに本当に感動する。

各市町村はオーテピア高知図書館の経営方針について研修等で知っている人も多いだろう。まず自分たち教育委員会として、オーテピア高知図書館がどんな資料をどんな方法で貸出ししているのか等、細かなところまで、しっかり伝えていかななくてはいけないと感じた。

また、大学との連携によって読み聞かせ等をしているのは、将来へつないでいける。4月になると県内で

も新規の幼稚園教諭が採用されている。学生が実習に来ているときには、図書に対する意識の高さを感じており、市町村としてもありがたい。幼児教育で一番大事なのは心の豊かさだと思う。それを芽生えさせるために、大学と連携し、図書を通して育むのは素晴らしい。

団体への貸出しについて、山田高校との取り組みが報告にあり、山田高校は総合的な学習の時間、キャリア教育、そういった中ですばらしい取り組みが出ている。これは課題解決に向けて自分で調べるための資料が手元にあるからこそ学べる。これは高知県全体の県立高校や特別支援学校の皆さん、他の学校も学ばべきと感じた。団体貸出しは県内市町村の学校でも貸りられるのか。

(事務局)

オーテピア高知図書館は高知県立図書館と高知市民図書館との合築の図書館なので、高知市立学校に対しては直接サービスする。その他の高知県の市町村は、各市町村立図書館がサービスを提供することが基本で、それを県立図書館がバックアップをしている。その点については、県内の市町村立図書館の充実がなお求められると思っている。

(委員)

この図書館は良い本がそろっており、毎年蔵書がたくさん増えているが、増えた蔵書分はどうしているのか。

(事務局)

オーテピア高知図書館ができた際に基本理念や基本方針などの様々なことを取り決めをしており、それを踏まえた上で第2期サービス計画を策定した。それは、現在の県と市の図書館で共通して取り組みをしたバイブルのようなもの。第2期サービス計画については、各市町村の図書館にも周知もさせていただいている。貸出しなど細かい部分のことについては、県立図書館が図書館向けにマニュアルを毎年策定し、年度当初に各市町村の方に配布しているので、ご覧いただきたい。

大学との連携については、オーテピアの職員だけでは限界があるので、外の力をもっと借りていきたい状況と大学との連携があいまって、今年の高知学園短期大学の幼児教育分野の学生たちとコラボが始まった。高知の幼児教育を将来担っていく人材なので、オーテピア高知図書館としても人材育成に少しでも貢献したい思いで取り組みを進めている。

今年の高知学園短期大学の幼児教育分野と連携しているが、他にも土佐リハビリテーション学園などいろいろな学校との取り組みが既に始まっているものもある。県内の他大学も含めていろいろなところで連携を進めていきたいと考えている。

山田高校の件について、図書館見学だけではなく、様々な面でオーテピアの資料を使って学習に役立てるなどいろいろな取り組みを進めている。近日、研究発表会があり、学習の成果を県内の各学校にも共有できる仕組みを当館で検討している。

蔵書の扱いについて、毎年新しい本を買ったり寄贈いただいたりしている。県内で図書館の役割が違って。県立図書館は資料館としての役目があるので一定の資料は残していくが、新陳代謝が必要なので全く除籍をしないわけではない。除籍した本は各市町村図書館に連絡し、各館で選書の後、残ったものには県内の児童養護施設や夜間中学に提供している。海外の日本高知県人会が、日本の子供に本が欲しいという声

も聞いているので、無駄なく活用できるよう検討している。

(事務局)

図書購入の選書段階において県市で役割分担している。専門書は県立図書館で選書し、高知市は分館・分室も含めて一般的な読み物もたくさん購入している。利用者によく読まれており、返却される頃にはボロボロになっているものもある。傷みが著しい資料は次のところに譲るのは難しいが、新陳代謝のため、基準に則り施設や学校等に配っている。

他にも、高知城周辺の文化施設が共同で1年に1回お城下文化の日という行事を実施しており、オーテピアも参加して多目的広場でリサイクル本を配布している。これは県民市民の皆様還元する形で、大変人気行事となっている。

(委員)

個人的に従来の図書館は本を利用するところだと思っているが、毎年の報告を聞いていると、情報発信の場所、あるいは知恵のサークルの場所というイメージも持ってきている。社会の問題解決の定義、障害やバリアフリーというのは、触れてみないとわからないことがいっぱいある。私は慣れることが一番近道だと感じている。障害のことに限らず、図書館で企画をして、何か問題に触れることが非常にありがたい催しだと思う。

社会福祉、障害福祉等の部分と、ティーンズ関連では不登校や引きこもりの問題など、社会的に非常に問題になっているを少しずつ触れていくのもすごく大事だと思っている。感謝するしかない。もっと企画を出していただき、図書館がどんどん情報発信の場所になって、社会が目を向けてくれるのがベターだと思うので、これからも頑張してほしい。

(事務局)

オーテピアができたときには健康、安心、防災とビジネス、産業、農業という大きく2つの分野での課題解決サービスになっていた。しかし、社会の変化によって新しい課題や、それまであまりフォーカスしていなかった引きこもり、ヤングケアラー、高知の積年の課題である不登校等の教育課題、福祉の課題が重要になってきている。そういった課題にもオーテピアがもっと貢献していきたいが、オーテピアだけでは当然解決は難しい。そこで関係する県の部局、教育委員会、教育支援センター、心の教育センターなどと連携しながら様々な取り組みを進めている。今後も職員が、今何が県政上、教育上の課題なのかをキャッチできるよう、アンテナを常に高くしてさびないように、磨いていく意識を持ち続けてほしいと思っており、私自身もそうありたい。

(事務局)

高知市でも不登校や引きこもりは同じように課題になっている。連携については県は県の連携先と、高知市が高知市の教育支援センターやそれぞれの課と連携しながら、展示や訪問などで、一緒に課題に解決に向けて取り組んでいる。

2階の入り口近くにある図書展示スペースでは、年間を通して司書がいろいろなテーマを計画して本を展示している。うつをテーマに連携して展示したものは、よく利用された。そのテーマの本が並ぶことで、来た方が実際に手に取って見て、借りることができるので、本当にいいところにポイントを持って展示ができた。

委員のご意見にあった企画力も、図書館側から発信することは非常に大事だと感じた。

(委員)

貴重なご指摘をいただいた。図書館は、ある面で生き物でなくてはいけない。周りが変わったら、それに
応じて自分の生命力を生かしてその出来事に対応する。そして新しい出来事を考えるのに必要な情報を柔軟な形で、あらゆる人にアクセス可能な形で、提供できる。それをいつも模索していくことになると思う。

(委員)

毎年、この情報に触れ、本当に感動している。県市合築のオーテピアができて数年たつが、県市、お互いに
融合しながら取り組んでいるのが、報告を聞いていてもよく伝わってきた。館長が、市の部分だけ説明する
のではなく県の部分も含めてすべて説明するところに象徴されており、とてもいい雰囲気だなと思った。境目
をはっきりする時代から、あやふやな時代になって、そこからもう境目をなくしていくような時代になりつつ
ある。そういう世界にしていきたい。

ビジネス分野の観点からコメントする。新型コロナウイルスが5類に移行する話もできており、ビジネスの
時局も、大きく変わっていくのかと思っている。新型コロナウイルス感染症が落ち着いていくのは来年度で
はないか。その環境変化が大きく出てくるとしており、社会経済環境も活発化していこう。そういう
中で、オーテピア高知図書館としてどう対応していくのかは考えていけない部分かと思う。

数年前から言われているが、環境変化の中で大人の教育もすごく大事だと思っている。最近のキーワード
にリスクリングが出てきている。これはDXや新たなビジネスリテラシーを身につけるために、単にOJTの延
長線上では身につかないような能力を、業務時間から外れて、しっかり学ぶことを指した言葉のよう。

リスクリングをしながら、コロナ後のビジネスへの対応も盛んにやっていかないといけない。人的資本投
資、人的資本経営という言葉も今多く出てきている。そういう意味でリスクリングは大人の学び直しという
よりは、新たなことを学んでいくこと。人材育成需要が、企業や転職市場等に出てくるのかと思う。公的な機
関だとポリテクセンター、あるいは県の土佐まるごとビジネスアカデミーなどの部門が中心になって、ある
いは商工会、商工会議所みたいなのも支援されていこう。オーテピアとしてもリスクリングということ
をテーマに、何か支援をされてもいいのではないかな。

コロナは分断を促進したと言われている。資料1の来館者数について居場所としての役割の説明があった。
図書館は自分で調べに行くところでもありつつ、オーテピアの特徴としてはみんなで話すこともできる図書
館として、少しのおしゃべりなら許容される図書館という位置付けだった。それはみんなでつながりを求め
たり調べ物をしたりとか、そういうことが当初のやり方としてあったのではないかな。今はグループ室も使え
ず、基本的には勉強、閲覧する部屋になっていると思うが、そろそろみんなで調べたり、みんなで何かをし
たりというフェーズに移ってもいいのではないかなと思う。その辺を来年度、ご検討いただきたい。

(事務局)

リスクリングについて、コロナ後は、いろいろな形で商売やその中身を変える、新しい仕事に就く等の様々
な方が出てくると思う。そういう点も視野に入れながら関係機関と連携した取り組みをやっていきたい。
また、オーテピアは来館者が多いので、リスクリングに関する資料、情報をオーテピアで集めて発信してい
くだけでも随分違ってくるかと思うので、ぜひ参考にさせていただきたい。

居場所としての役割について、オーテピアには性別年齢を超えていろいろな方が本当に日々たくさん来館されている。3月13日からは、マスク着用も個人の判断という国の方針が出ている。オーテピアでは3月13日からどうするか決めている。また、5月からコロナの5類への移行に向けてどうしていくかも、国、県の動向を見極めながら決めていきたい。できるだけ平時に戻す方向だが、そのまま元に戻すのではなく、さらにバージョンアップした形に戻していきたいと考えている。

(事務局)

本来、グループ室はディスカッションをしながら学習を深めていく部屋だったがコロナ禍以降は閲覧席として使っている。いろいろなことを想像し、議論するために会話ができる図書館だった。5月以降、アフターコロナが以前のように戻るのかも少し危惧している。

グループ室はまだ以前のように利用できないのかというお問い合わせもあるので、本来の使い方を望まれている状況もある。つながりや、みんなでディスカッションしながら調べものをしたり、発展的にやっていくことも、さらにバージョンアップしながらやるにはどうしたらいいかを施設管理者としても考えていかなければならない。

(委員)

非常に重要なお指摘をいただいた。リスクリングというのは、スキルをもう一度ということ。確かに新しい視点かもしれないが、普通に考えれば、一生懸命生活していくことは、日々リスクリングかもしれない。サービス計画もリスクリングの視点から一応見直して、こういうふうに読めば、リスクリングに関しては、ガイドラインや指針が得られる計画になっているということを確認しておいてほしい。

(委員)

オーテピアやいろいろな図書館の進化に本当に驚いている。マイナンバーカードやスマホでの貸出しが可能になるという、新しい時代が来ている。今までの価値観が、一気に変わってくる。価値観、考えなどの古いものが、一掃される時代と言われている。自分も追いついていけないといけない。

オーテピアアプリを使ってみようという初級講座があるが、1回の受講ではなかなか理解できないので、何度も初級講座があるといい。何度でも初級講座に通えるように、すぐに中級、上級と進まないようにしてほしい。気軽に何度でもというところを大切にしてほしい。

前回の会ですごく驚いたのは、図書館は文化の殿堂のように考えていたが、ビジネス支援、課題解決などにすごく寄与されている。今回も新規の試みがたくさんあり、それを広めるのもいいが、ここというところをもっと深めていくといいのではないかと。

リスクリングについて、どこかの企業で、一般事務や単純作業をしている職員が新しい専門的なデジタル技術、アルゴリズム等を学ぶことによって、専門的なスキルを身につけて会社にもう一度貢献する事例が紹介されていた。会社の中で、リスクリングの時間を作るところは作っていただいたらいいし、別のところという企業もあった。今までの給料がぐっとよくなるし、会社としても有能な人材確保がそのままできる点で、お互いウインウインの関係になる事例があった。そういうのにも図書館はとても有効ではないか。

学生ボランティアがいろいろな読み聞かせ等をしてくださるのはすごくありがたい。保育士は本当に毎日忙しく、重責を担っている。絵本もすごく大事なことを分かっているし、図書館も利用しているが、新しい使

い方、図書館の在り方が、なかなか掴めないままなところがある。学生ボランティアが効果的で楽しい図書館の使い方をスキルとして持って、幼稚園とか保育園に来られたらとてもありがたいと思った。

保護者に向けても、保育園では絵本の大事さについて啓発してきた。数字を覚えることや、語彙が豊かになることで、考える力がついて学力も上がると絵本や本に親しむことを一生懸命啓発してきた。しかし本当は絵本の読み聞かせや、本を読むことによって、親子間の愛や思い出が心の栄養、筋肉になることが一番の財産かと思っており、保護者にも伝えてきた。保護者に向けてのいろいろな対応もしてくださっているので、ありがたい。

今、ひきこもり、不登校や感覚が過敏になったり、こだわりがすごく強いお子さんがいる。そんなお子さんにとっても、図書館は居場所になる。こだわりが強くて1つのものにフォーカスしたら、すごく突き詰めたいお子さんもいるので、図書館はそれに対応して居心地のいい場所になることもあるかと思った。それには広報、連携等がすごく大切になってくる。保育園でも書店や、図書館の方など、熱い思いを共有して巻き込む力がある方がおいでるので、あの手この手で楽しいことをやったださる。マンパワーが足りない、収蔵場所がないことも書かれていたが、マンパワーをここだけでなく、いろいろなところから借りて発展していくことが、これから大切になってくると思った。新規の楽しそうなことをたくさん発案、企画してくださってありがたい。

(事務局)

学生ボランティアは先ほど説明した通りだが、オーテピア側にもいろいろな気づきがあり、学生の自由で豊かな発想に刺激を受ける場合もある。お互いにメリットがある形で、長く連携をしていきたい。

読み聞かせは目の前に、リアルに親子がいる中で、実践的に読み聞かせをするので、学生にとっても自分でいろいろ反省点が見えてくるなど、人材育成につながってるのではないかと考えている。また、子育て支援コーナーは資料も含めて、充実させていこうと思っている。外部の方々からのアドバイスをぜひいただければと思う。

(委員)

ボランティアの方々の協力は、図書館にはぜひ必要なもので、いろいろな考え方があがる。ボランティアの方は、いろいろな能力を持っておられるので、能力を発揮する場を提供するのも1つの見方だと思う。こちらの要求だけ押し付けるのではなく、お持ちの能力を図書館で発揮してみないかという視点。今ご指摘を受けてそういうものが一番必要かと思った。今後の検討課題でもあると思う。

図書館活動と利用者、人を結びつけるのは、広い意味での知的好奇心。いろいろなことをしてみよう、こういうことをしてみたらどうなるか、こういうことを知りたいということだろう。それを基準にその人の輪を作って広げていく。そして、個人の能力をいろいろな方に対して広く活用できるように、そういう場、手段、その他をオーテピアが提供できればいいと思う。

(委員)

5周年を迎えるということだが、オーテピアができるまでは、学生は街には行くところがないというのをよく聞いた。このオーテピアができてからは、今日は友達とオーテピアに寄って帰ってきたとか、時間があつたのでオーテピアで時間を潰していたとか、そういう話を聞くようになった。子どもたちが図書館に行くこと

自体が少し少なかったと思うので、オーテピアという場所ができた影響は非常に大きいと実感している。居場所作りについて説明があったが、学生にとっては居場所として認知されてきたのではないかと思っている。

委員からもデジタル化がどんどん進んでいるという話がたくさん出たが、私自身も、最初は貸し出しのときも戸惑いがあり、今でもあれっというときもある。コロナ禍になって非対面のシステムが増えて、スーパー等でも年配の方が戸惑ってらっしゃる姿も非常によく見かける。システムは利用者の皆さんはスムーズに使いこなせているのか。どういう年代の方たちが利用されているのか。

本当にたくさんの本があって、いろいろなサービスがあるオーテピアなので、機械がややこしいから、わからないからという理由で利用されないのは非常にもったいない。デジタル面でのサポートもぜひ手厚いものにしていただきたい。

多文化サービスについて、在留の外国人と地域住民の交流の場となっている説明があったが、この3年間、学生は国際交流をする場が非常に少なくなっていると思う。子供の学校でも、この3年間は海外研修もなく、他の学校でも今まで海外に行っていた修学旅行も全部なくなっている。そういう高知のお子さんは特に外国の方と接することが少ないと思うので、在留の外国人の方がいらっしゃるのであれば、その学校や学生の人たちと交流ができたらいいと思った。アフターコロナになって来年度は海外研修に行こうという案内も来ているが、留学や研修の費用も非常にかかるため、平等には体験しにくい。在留の外国人の方と異文化に触れる機会があればいいと感じた。5周年ということなので、ぜひオーテピアらしい幅広い年代の方が集える企画を今後も期待している。

(委員)

資料3の9ページにある在留外国人に向けたサービスに関して。在留外国人向けの図書館活用講座の記録が写真とともにあるが、手応え、要望があれば、もう少し細かい説明をいただきたい。

(事務局)

多文化サービスはこの3年間で力を入れてきた分野。これは、県内の大学、専門学校には留学生が在学しており日本人学科が新しくできた学校もある。加えて県内には、ベトナム、インドネシアを中心とした技能実習生や高度人材という形の在住外国人の方々が急激に増えてきている。多文化サービスでは在住外国人の方々をサポートするだけでなく、日本語を教える方、そして雇用する事業主、地域の方々それぞれ対象者別に多文化を理解し、在住外国人の方々が地域で交流できるよう、お互いに暮らしやすい高知を作りたいという思いで力を入れてきた。

市町村に在住外国人が増えてきているので、来年度はそういった方々向けに、オーテピア高知図書館だけでなく、土佐市、香美市、四万十町等に対しても、貸出しセットを作って市町村図書館にも貸し出す取り組みをする。

国際交流の観点では、相互の交流が全てストップしていたが、この3月には外国客船も7隻ほど寄港し、どんどん海外からのインバウンドの受け入れ、国際交流も再開していく予定になっている。図書館としても国際交流協会や、JETプログラムで高知に来ている国際交流員、外国語指導助手等とも連携しながら、オーテピア高知図書館と関係機関とで、交流の場づくり等にも尽力していきたい。

(事務局)

現在のところ市民図書館、市の取り組み等では多文化サービスにおける在留外国人等への直接のサービスはそれほどはない。ただ高知市内に在住の方に情報が届けばサービスを利用していただけなので、県と共同で実施している。

システムをスムーズに使いこなせているかという質問について、貸出し等はカウンターでも行っているが、セルフ貸出機は開館当初から案内している。利用率は8割程度となっており、8割弱の方はセルフ貸出機を使いこなしている。ただ操作を迷っている様子の方がいれば、職員が声掛けをしてサポートし、馴染んでいただいている。操作はそんなに難しくないもので、使ってみると多くの人はセルフ貸出機を利用する現状となっている。

(委員)

各委員のお話を聞いて、第3期についても考えていけないといけないと思った。

小学校からの電子図書館の発信について、第3期のテーマの1つとして、利用者の皆さんに発信力をつけていただくような支援ができないかと考えている。受信は本を読む、情報入れることだが、受信だけでなく世界に向けた発信をぜひ促進していただけたら高知県も盛り上がる。ユーチューブにアップロードしている人がたくさんおり、何より情報発信は楽しい。情報発信の楽しさが高知県、高知市で、どんどん育成されたら、地元の発展にも非常に寄与すると思う。

小学校の頃からトレーニングしていれば、高校生、大学生になったときに爆発的にブレイクする。東京や大阪から距離はあるが距離の壁を越えた、地元の発展を将来期待できる。委員の意見を伺って非常に大きな気づきをいただいた。

分館・分室の取り組みに関しては、サービス計画検討委員会の委員も考えていること。高知市民図書館本館と分館・分室の関係性が、県立図書館と市町村図書館の関係性のようになっていくと、高知市民図書館が何十年にわたって構築した高知市全域サービス、地元の図書館サービスが、全県的に展開されることになる。これはサービス計画検討委員会では基本構想からの課題。室戸や宿毛の方に、オーテピアがなぜ高知市にあるのかと強く言われており、それに答えるためにも、非常に大きなテーマである。分館・分室が地元の触れ合いにも貢献し、またそれと相互に発展していることは、非常に素晴らしいことなので、それを生かして次に展開できたらいい。

全世代の人に電子図書を使っただけのように、オーテピアも一生懸命取り組まないといけない。公共施設なので、若者だけでなく全世代の人に電子書籍のうまみがあるようにしてほしい。お年を召して、毎日のように歩かない方でも、部屋にいても図書館資料に触れることができる状態にできたら理想かと思った。

山田高校の事例を含めて、新しい資料をどんどん貸し出すことと、高知県全県的な展開は非常に重要だと思う。特になぜオーテピアが高知市にあるのかは、サービス検討委員会の委員には最後まである宿題。高知県の全県いかなるところでも、非常に高い図書サービスを受けられるというのを理想としている。その中で、教育機関との連携事例があった。室戸や宿毛にも県立高校があるので、学校等や市町村図書館、各地の教育委員会の先生方とも確認、連携しながら、県内学校との連携を核に各市町村との図書館サービスの展開もあり得るかと思った。

知恵のサークルのお話は非常に心に響いた。ご指摘のように社会問題に触れてみることも1つの大きな形である。本だけでは不十分という点で、オーテピアでいろいろな企画イベントがあり、アフターコロナを見据えいろいろな方と、実際の対面での触れ合い、話し合い、交流を促進することになっていく。その中でオー

テピアを核に、特に若い方が早い段階から社会問題等を考える機会ができれば素晴らしい。

リスキリングは第3期の主要テーマになるかと思っている。今までは「学校に行こう」となっていたが、細かい専門的なことが出てくるときにわざわざ仕事を1年、半年休んで学校に行くことでもない。1か月単位ぐらいで、いろいろなリスキリングができればいい。2期計画には基本的な枠組みは既に入っており、その様々な取り組みがそこへ向かっていくことになっている。

しかし利用者の方々からは、図書館に強力なリスキリング機能があることはあまり見えていない気がする。特にすぐ始められるところでは、パスファインダーを工夫できないか。ある分野をリスキリングしたいという方に向かって、「これをほぼ積み上げてこういう演習書をやったとしたら、この分野に詳しくなるよ」というパスファインダーができれば短期的にも良い。長期的には、こういったリスキリングを含めていかないといけない。

職人のような方も、例えば建築業や農業の方もDXを少しやりたい場合はパソコンを使わないといけない。Wi-Fi通信が必要なときに、わざわざWi-Fi通信を学びに学校へ行くのも仰々し過ぎる。かといって、1回講習会に出たらできるようになるものでもない。そのあたりを、オーテピアの情報収集力、発信力、いろいろなボランティアの力を結集していく。例えばいろいろな方々に、Wi-Fi接続について、5回セットで情報提供をするようなリスキリングの入口を提供しながら、最後は全ての世代の人にオーテピアを使いこなしていただくところのリテラシーにつなげていけたらいいと思った。

多文化サービスの話について。多文化サービスは在住外国人へのサービスに意識が行くが、学校の生徒にとっては外国人との交流は海外へ行ったようなもの。高知の子供たちが多文化に触れられるように、外国の文化をお持ちの方と交流できたらいい。

(事務局)

様々なボランティアを集結して、リスキリングの入口としていくのはとてもいいアイデアをいただいた。シルバー人材等いろいろな資格や能力をお持ちの方が多くいる。この方々を集めて職員だけではなかなかできないところで力を発揮していただくのも1つかと思う。

(事務局)

情報リテラシーの向上支援は今年度から職員が力を入れており、初級講座の重要性についても報告があった。今後は他でも初級講座の実施回数を増やす必要性の検討や、少ない人数で細かくサポートすることを考えている。1回やって終わりではなく、本当に使えるようになる講座にしていきたい。

先日、校長会で電子図書館のデモンストレーションを実施した。先生方も自分が苦手だから現場には持ち込まないということとはできない。必要なので現場に持ち帰らないといけないという思いで校長先生も取り組まれていると伺った。

校長会での紹介後、電子図書館では子供向けだけでなく、大人向けのお金や老後に関する書籍も予約が増加している。先生方も1回使ってみると便利なので使われているのではないかと。何かのきっかけで1回使ってみると、電子図書館への抵抗も少し薄らぐかと思っているので、時期を見て講座もやっていきたい。

(事務局)

電子書籍の予算は4,700万増額で要求している。これは国の交付金を活用するもので当初4億で要求

して財政課が驚いていた。内容は閲覧型の電子書籍「Kino Den」で、現在の電子図書館との住み分けをしていく。

オーテピア高知図書館の中にはデータベースが24種類あるが、これはオーテピアに来館しないと使えない。この閲覧型電子書籍「Kino Den」を導入すると、中山間地域や室戸や幡多でも、県内どこからでもデータベースとして利用できる。内容は電子図書館は小説や児童書が中心になっているが、「Kino Den」は学術書や専門書が豊富。中山間でもビジネス、研究等に役立つ内容のものを集めたい。

(委員)

リスキリングでのボランティア活動について。尼崎市で面白い事例がある。5、6年ぐらい前から「みんなの尼崎大学」というのがある。これは、みんなが先生、みんなが生徒、どこでも教室というコンセプトで実際の学校を使いサマースクールのような形で、期間を決めて毎年開催されている。たくさん教室があって、そこで時間割を組んで、いろいろな人が先生になって、みんなが生徒になるというもの。これを地元のいの町でやりたいと思っている。元々ここは追手前小学校だった経緯もあるので、オーテピアでそういうことができたらとても面白いと思う。

(委員)

マイナーな本を検索したがわからず、カウンターで問い合わせた親切に調べてもらった。オーテピアに所蔵はないが検索結果画面に電子書籍対応と表示があった。これは高知電子図書館のものとは別なのか。

(事務局)

高知電子図書館とは別のもの。

(委員)

電子書籍を利用しようと思えばできると思うが、やはり拒否反応がある。周りが電子書籍を利用すれば徐々に変わると思うが、紙の本を読みたいという思いがあり、とっぴらうのがなかなか私たちの年代は難しいかと思う。

(委員)

ただいまのご指摘のように、やはり情報提供とは難しいもの。発信側が当然と考えていても、受け手側に疑問符がたくさんつくということがある。ただいまのご指摘を十分生かしていただくようお願いする。

各委員のご指摘は、いかにもオーテピアらしく情報という観点での議論が主になった。昔であれば、本をどうするか紙の媒体をどうするかということが、中心だったろうと思う。やはり情報とはオーテピアの趣旨でもあり、電子化対応できる図書館という印象を受けた。

情報リテラシーについて。

リスキリングと関連するが、例えばリスキリングであれば、スキルをもう一度身につけるために、どういうレベルのスキルを学ぶのか。基礎的なものから最先端のものまで要求が様々で、図書館だけでは対応が難しいだろう。そこで、今ご指摘のあったようにボランティアでいろいろなレベルの方がおいでだろうから、この方々に能力を生かしていただくことは重要だと思う。

そこで、今日の資料 3-1 別紙にある、情報リテラシー体系図だが、非常によくまとまっている。これにもっと肉付けし、教科書に近いものにまとめ上げていただきたい。つまり、これを見れば自分がどういうタイプの知識を必要としていて、どういうレベルに自分があるのかがわかる。それに応じて、例えばオーテピアに相談をする等、そういうことができるものに、情報リテラシー体系図をまとめ上げていただくのが希望。

(事務局)

情報リテラシーの向上支援を、本図書館の非常に大きな目玉として入れている理由は、図書館は知識を資源として活用する場所なので、知識基盤社会になり情報知識産業は第 4 次産業のような形になっている。そういう中で、例えば日本では出版物の出版地は東京ばかりで、本来はとてもしびつな事。地方から何ら知識が生産されないことはありえない。図書館を知識資源がある場所としてとらえていただき、リテラシーが向上すればそれを資源として活用してさらに新しいものを生み出す、再生産ができると思う。

著作権の壁が厳しく、電子書籍は紙の書籍の 2 倍から 10 倍も払わないといけないので、どんどん購入できる状況ではない。そこで、ここの図書館が豊富に持っている知識資源を活用し、内容を理解した上で新たに書くのであれば別に著作権も引かからない。ここ高知で新たな知識を生産し、それを電子書籍でも紙の書籍でもいいので出版する。それがこの図書館で充実していけば、この図書館自体が新しく情報知識を発信する場所になっていくと思う。それを目指して、まずはリテラシー向上支援が必要かということで体系図を作成した。

議事(2) その他

(委員)

事務局は本日の議論を参考にして、今後の図書館運営、サービス計画の進捗にご利用いただきたい。

16 時 00 分 協議終了

令和4年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

令和5年2月24日（金）

○委員

オーテピア 4階ホール

役 職 等	氏 名	備考
高知市立大津小学校長、高知県学校図書館協議会会長	岡 林 宏 枝 お か ぼ や し ひ ろ え	
高知市朝倉ふれあいセンター長、元小学校長	秋 森 眞 五 あ き も り し ん ご	
横浜小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 元高知市青少年育成協議会理事	西 尾 敦 子 に し お あ つ こ	
津野町教育長	久 寿 久 美 子 く す く み こ	
第四次高知県子ども読書活動推進計画策定委員	花 房 果 子 は な ふ き が こ	
元高知市保育園長	神 野 万 里 じ ん の ま り	
特定非営利活動法人こうち企業支援センター理事長	田 村 樹 志 雄 た む ら き し お	
高知大学名誉教授	加 藤 勉 か と う つ と む	
高知工科大学情報学群長	篠 森 敬 三 し の も り け い ぞ う	
特定非営利活動法人高知市身体障害者連合会会長	中 屋 圭 二 な か や け い じ	

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名	備考
高知県立図書館	館 長	山 崎 生	
	副館長	門 田 美 和	
	専門企画員（司書育成・サービス推進担当）	山 重 壮 一	
	企画調整課長兼チーフ（企画調整担当）	岡 村 祐 人	
	チーフ（総務担当）	浅 川 美 佐	
	チーフ（図書利用担当）	谷 岡 祥 子	
	チーフ（情報資料管理担当）	渡 邊 哲 哉	
	チーフ（支援協力担当）	尾 形 千 晶	
	企画調整課 司書	八 田 裕 子	
	企画調整課 司書	上 岡 真 土	
	企画調整課 主任	溝 渕 里 奈	
	企画調整課 司書	宮 本 直 美	
	企画調整課 司書	戸 苺 綾 子	
高知市民図書館	館 長	高 石 敏 子	
	副館長	北 川 朋 代	
	図書利用担当管理主幹	武 井 一 仁	
	主幹図書利用担当係長事務取扱	西 内 久 代	
	図書利用担当係長	川 村 紀 代	
	主幹資料管理担当係長事務取扱	弘 瀬 聖 子	
高知市 図書館・科学館課	管理担当係長	横 川 良 明	
	課長	弘 瀬 友 也	欠席